

# こんにちは 山田耕平 です

2021.10.7 No.424

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>

## 高齢者への聞こえの支援に向けて、党区議団が条例提案

# 補聴器購入費助成条例 自・公・立民が否決

### ■高齢者補聴器購入費助成制度を創設している23区自治体数

実施済	実施予定 検討中	未実施
14区※	3区	6区

※千代田区は高齢者に限らず利用可能

### ■当条例提案に対する各会派の態度

会派	自民	公明	共産	連携	立民	平和	無維
賛否	×	×	○	○	×	×	×

■自民/助成がひとり一人の区民にあった補聴器の購入の支援につながるのか疑問であり慎重であるべき。

■公明/全国共通の課題であり、広域的に国や都が定めるべき。

各会派の賛否と理由  
条例の採択に賛成したのは、共産・少数会派連携でした。  
不採択を主張した各会派の意見(要旨)は次の通りです。

## 各会派の賛否と理由

補聴器購入を支援するため  
条例は、65歳以上の非課税世帯に属する区民が、医師の診断に基づき必要な補聴器を購入した際、3万円を上限に区が助成金を支給するものです。23区の多くの自治体で助成が開始されていますが、杉並区では実施の見通しがありません。

## 補聴器購入を支援するため

日本共産党杉並区議団が提案した「補聴器購入費助成条例」が9月16日の保健福祉委員会で審議され、自民・公明・立民などの反対で委員会否決されました。10月15日の本会議最終日において採決が行なわれます。

## 議会の提案権を制限する態度 独立性や自主性を堅持すべき

自民、公明のみならず、国政では共産党と野党共闘を進めている立憲民主党までもが、区議会で高齢者支援のための条例提案に不採択としたことは重大です。

同会派は、不採択の理由として、行政と予算確保の調整がされていないことを上げていますが、少額(300万円程度)の予算を伴う議員提出議案に対しても「田中区長との調整が足りない」とする姿勢は、議会の権限や独立性を自ら放棄し、区長に追随する行為です。

本来、議員の条例提案は議会改革の努力の上でも積極的活用が求められるものであり、事実上、議員の議案提案権を大きく制約する態度は不適切なものです。

## 陳情は委員会付託を継続 来年度の助成実現に向けて

■立民/補聴器購入の助成は、必要性は十分に理解できるが、条例提出前に行政と予算確保の調整が行なわれていない。

■いのち平和/補聴器の必要性は理解できるが、あらかじめ購入することを前提としており、低所得世帯の支援になるのか疑問。受領委任払の制度が必要。

条例提案は、本会議においても賛成少数で否決される見通しですが、住民団体の助成を求める陳情は継続審査となっています。来年度からの助成実現に向けて、陳情を採択することが重要です。

党区議団は、高齢者のみなさんの聞こえの支援を前に進めるため、全力を尽くす決意です。

# 第5波の被害・犠牲を反省し、第6波への備えを 杉並区内自宅療養者3名の死亡が判明

## 2 自宅療養中の死亡事例の概要

	住民登録	年齢	性別	概要
1	他区	40代	男性	区内店舗内でコロナ肺炎により死亡
2	杉並区	60代	男性	自宅で虚血性心疾患により死亡
3	杉並区	80代	女性	自宅でコロナ肺炎により死亡

計3名 (9月14日現在)

杉並区の報告文書「区内における新型コロナ自宅療養中の死亡者数の取扱いについて」より抜粋

委員会の質疑で杉並区は、適切に対応できなかったことについて謝罪をしました。が、発生した死亡事例3件についての経過など、徹底した真相解明が必要です。自宅療養者の把握や病状の確認が出来なかった原因は保健所体制の脆弱さにあります。その反省がなければ、同じことが繰り返されてしまいます。第6波に備えるために、削減されてきた保健所体制の再構築、抜本的拡充を早急に行なうことが必要です。

## 徹底した真相解明と 保健所体制抜本強化を

委員会質疑により、マスコミ報道された40代男性(①)と新たに報告のあった60代男性(②)については8月中旬に、80代女性については9月中旬に亡くなっていたことが明らかとなりました。

# 8月中に2名、9月中に1名が死亡

杉並区は9月19日に開かれた区議会保健福祉委員会で、新型コロナによる自宅療養中の死亡事例が、これまでに区内で3件発生していたことを報告しました。

これまで、保健所が安否確認を打ち切った40代男性の死亡事例がマスコミによって報道されており、新たに2名の死亡事例があったことが明らかとなりました。委員会では、私がこの問題を質しました。

区は3名の死亡事例について①他区在住の40代男性が区内勤務先店舗内でコロナ肺炎により死亡②区内在住60代男性が自宅療養中に虚血性心疾患により死亡③区内80代女性が自宅でコロナ肺炎により死亡、と報告しています。(左上報告文書)

## 当初、8月中の自宅療養中死亡者「発生無し」と議会へ報告

そもそも、8月31日午前の区議会危機管理連絡協議会で、私が自宅療養中の死亡者について確認したところ、杉並区は発生していないと回答していました。しかし、同日午後にマスコミ報道で40代男性の死亡事例が発覚、今回の区の報告で、さらにもう1人が8月中に亡くなっていたことが今更になって報告されること自体、重大問題です。

杉並区は、区民ではない事や、直接の死因が新型コロナでないことなどを理由に公表しなかった、と言いつけをしますが、こうした公表基準の考え方は杉並区独自のものであり、本来は自宅療養中に保健所や医療機関からのサポートが受けられない状況となって亡くなった方を適切に公表すべきです。

### 緊急事態宣言解除…

### 今週の一コマ

緊急事態宣言が解除されました。第6波が懸念されますが、子ども達の日常生活も一息付くことができます。宣言解除後、決算準備の真っ只中ですが無理やり時間を作り、小金井公園に行きました。この一年半のコロナ禍の間に、息子(11歳)にとっては、遊具は小さくなっていました。コロナ長期化が子ども達に与える影響が心配です…。

## ■区内業者と区幹部職員のゴルフ問題に関する契約議案が審査された区民生活委員会での立憲民主党杉並区議団の態度について

今定例会では、田中区長による「緊急事態宣言下の他県ゴルフ場での飲酒会食」問題に続き、杉並区事業応募者(指定管理者)と区幹部職員が、事業者選定の前後でゴルフを共にしていた問題に発展しました。

その契約議案が審査された区民生活委員会において、自民・公明・立民は徹底審査を求める「継続動議」に反対。区内契約業者と区幹部職員のゴルフ問題を不問に付し、議案に賛成しました。

区民生活委員会の定数は9、立民が反対すれば賛否同数で委員長(共産)が決する場面でした。自民公明と共に区長に追従する立憲民主党杉並区議団の態度は重大な問題です。

※区民委員会における各会派の賛否  
賛成5(自民×3、公明、立民)  
反対3(共産、連携、無維)